

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成17、18年度採択)

中間評価結果(公表用)

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	A S R劣化構造物安全性能評価手法の開発	京都大学大学院 教授 宮川 豊章	B

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 非破壊検査手法の信頼度を高めるため、指摘事項に留意しながら、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

1. 劣化状況の評価と構造物の安全性評価、補修補強対策とを結び付け、非破壊検査手法の信頼度を高めるための検討を十分に行って頂きたい。その際には、提案されている各非破壊検査手法が従来方法とどのように異なり、それによりどのように性能評価・精度が向上するのか、またそれぞれの検査手法の適用条件・範囲について具体的に整理して頂きたい。